

唐沢さん
お久しぶりです

近づく

すれ違う

賢治さん

草野心平

二十代三十代の頃の自分は時がとてものろろして
ろしていた。ところが六十を過ぎてからは時
間が新幹線などよりも早く過ぎてしまふ。
内心あちこちため息している感じだ。
まづてみるとのろのろの時をどまるでな
かったかのよりに、まじの生涯全部が凄
く早くふっとんでしまふたような気がする。

今年も秋にはいーこーまった。九月二十

一日は市二十八回目の賢治祭である。

賢治の記念祭と修羅場初めこよんをの

は一九二四年の秋、弘州の岩手大学で開いた。

四十六年たっている。昔年と様れた

「あが光太郎」にフグいて「あが賢治」が近刊さ

れることになったが、ふりがへってみこと

五十年に自分が賢治に寄して書いたものの抜粋

がその内容である。時代の流れの早さ、また

そのはかなさをしみじみ思う。